

カガクで
ネガイを
カナエル会社

カネカは実験カンパニー

KANEKA

(証券コード: 4118)

株主のみなさまへ

第101期 中間報告書

2024年4月1日 - 2024年9月30日

株式会社 **カネカ**

カネカは世界を健康にする。

KANEKA thinks “Wellness First”.

カネカは、地球の命に心を寄せ、食べ物を健やかにする、
人間や動物を元気にする、ビジネスに活気を与える、
そして社会を明るくする。

この世界を「健康」にしていくために。

カネカは、ますますカガクにできることを広げ、
さまざまなソリューションを通じて、社会と人々の
願いをかなえていきます。

カネカは命を育む社会を支えます。



CONTENTS

株主のみなさまへ	2	特集	7	企業データ	13
連結業績ハイライト	3	トピックス	9	インフォメーション	14
セグメント別概況	4	連結財務諸表	12		

株主のみなさまへ



代表取締役 社長

藤井 一彦

平素よりご高配を賜り厚く御礼申し上げます。2024年度中間期(2024年4月～9月)の業績および今後の見通しについてご説明申し上げます。

➤ 世界経済の状況 –景気は停滞感が続いている。先行きは不透明–

日本は景気回復の足取りが依然鈍く、中国は内需の停滞が続いています。欧州は景気の低迷基調が続く、米国は消費が底堅く推移しながらも減速の懸念をはらんでいます。足元では中東情勢の悪化など地政学リスクが高まり、米国・日本の政治情勢が不安定化するなか、先行きの見通しは不透明となっています。

➤ 当社グループの業績 –増収増益、当第2四半期もモメンタムを維持–

このような状況下、当社グループの当中間期の業績は、売上高3,959億6千3百万円(前年同期比7.0%増)、営業利益191億1百万円(前年同期比51.5%増)、経常利益143億9千1百万円(前年同期比13.0%増)、親会社株主に帰属する中間純利益101億6千2百万円(前年同期比14.2%増)となりました。

不透明な需要環境下、売上高・営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期に比べ、増収増益となりました。全体として、第1四半期(2024年4月～6月)から続く強いモメンタムを維持しています。

Material, QOL, Nutritionは前年同期比で大幅な増益となりました。Health CareはMedicalが好調を継続するも、Pharmaの一部で第4四半期(2025年1月～3月)への出荷調整が発生し、減益となりました。Pharmaの販売が回復することから、Health Careを含めた全てのSUの成長モメンタムが強まり、第4四半期には100億円/四半期を超える営業利益が期待できる状況です。

先端事業群(MS, E & I, PV, Medical, Pharma, Supplement)へのシフトが進み、ポートフォリオ変革が着実に前進しています。

➤ 今後の見通し

IMFが10月に公表した世界経済の成長率は、2024・2025年ともに3.2%にとどまっています。また、金融・為替市場の変動、中東・ウクライナなど地政学リスクの増大により、不確実な情勢が予想されます。

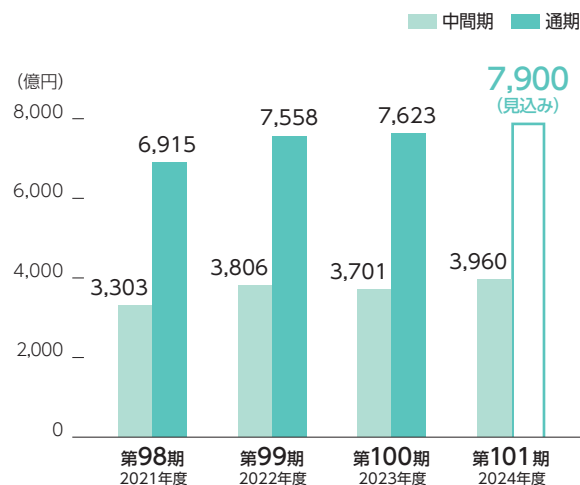
このような状況下、当社はカネカならではの差別化技術を拡げ、ポートフォリオシフトを急ぎます。

下期も全体としては第1四半期から続く強いモメンタムを継続してまいります。

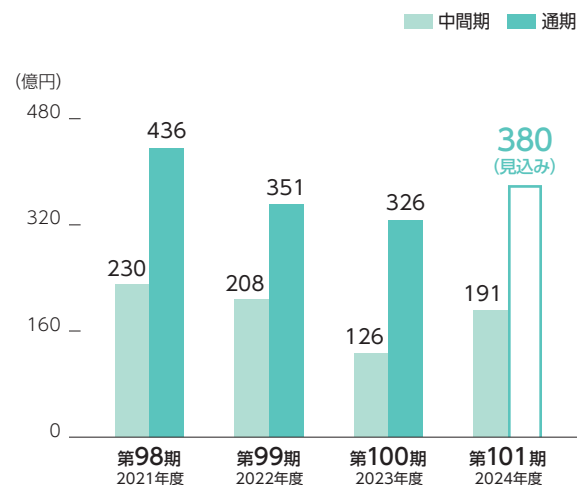
中間配当金につきましては、1株あたり60円とさせていただきます。株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

連結業績ハイライト (推移/2024年度中間期および通期見込み)

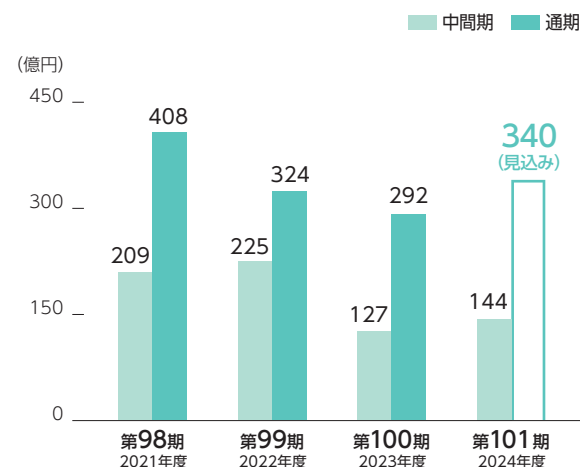
▶売上高



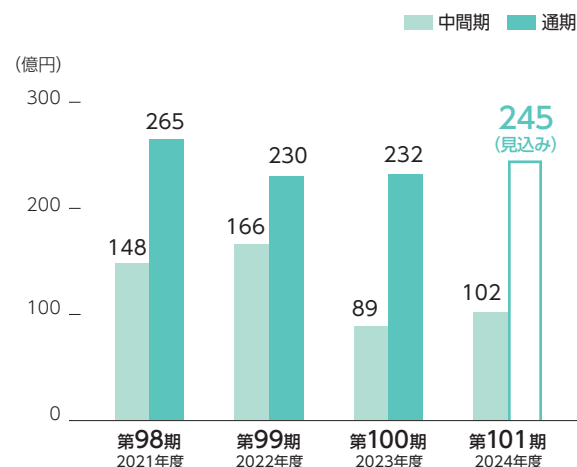
▶営業利益



▶経常利益



▶親会社株主に帰属する当期純利益



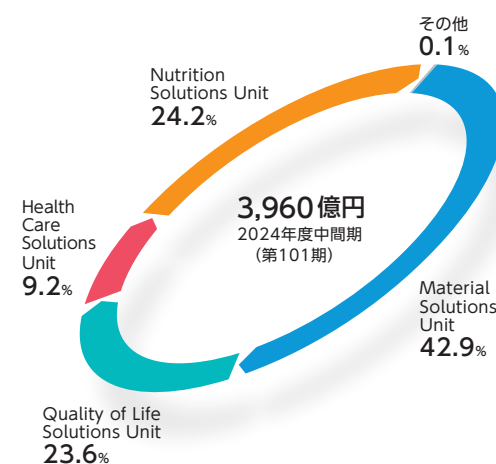
セグメント別概況 (2024年度中間期)

▶セグメント別売上高・営業利益

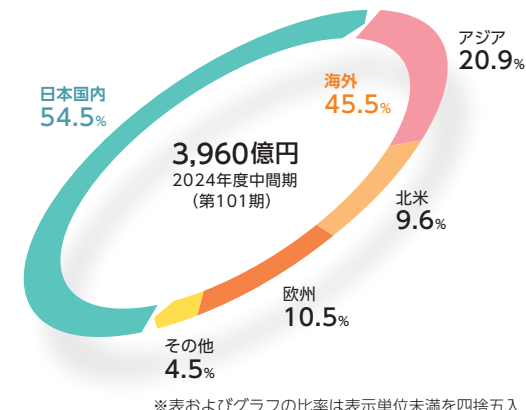
(単位: 億円)

	売上高		営業利益	
	2024年度中間期 (第101期)	前年同期比	2024年度中間期 (第101期)	前年同期比
Material Solutions Unit	1,699	134 (8.6%)	161	39 (32.6%)
Quality of Life Solutions Unit	934	87 (10.2%)	96	25 (34.5%)
Health Care Solutions Unit	364	2 (0.6%)	54	△4 (△7.6%)
Nutrition Solutions Unit	958	38 (4.1%)	64	19 (40.9%)
その他	4	△2 (△32.0%)	2	△2 (△54.3%)
調整額	—	—	△186	△11 (—)
計	3,960	258 (7.0%)	191	65 (51.5%)

▶セグメント別売上高構成比



▶地域別売上高構成比



※表およびグラフの比率は表示単位未満を四捨五入

各Solutions Unitの詳細は次のページをご確認ください▶

セグメント別概況

Earthology Chemical Solution / 化学素材の無限の可能性を引き出し、持続可能型社会を支え、地球環境と生活の革新に貢献します。

Material Solutions Unit

素材の豊かさを引き出し、生活と環境の進化を支える
Material Value Creator

MOD・MSの強い成長モメンタムが続き、増収増益
年間では増益の見通し

- Vinylsは、前年並みの営業利益となりました。国内での塩ビの価格改定も寄与し、第4四半期には回復を見込んでいます。
- MODは、前年から回復した競争力を維持し、全拠点で販売が増加しました。差別化力のある非塩ビ用途およびMXも着実に販売が拡大し、収益に寄与しています。
- MSは、ベルギーの生産能力増強設備が順調に稼働を開始しました。下期も上期に続いて販売拡大・高収益のモメンタムを継続する見込みです。
- Green Planet®は、世界の大手ブランドホルダーでの大型案件採用に向けた取り組みが進展しています。家電・自動車向け発泡緩衝材用途での採用が始まるなど、Green Planet®への関心は一層高まっています。量産実証プラントの立ち上げを着実に進めてまいります。

Quality of Life Solutions Unit

素材の力で生活価値の先端をプロデュースする
Quality of Life Pathfinder

E & Iの高収益が、全体で大幅な増収増益
下期もE & Iの強いモメンタムが続く

- Foamは、自動車分野や国内の農水産・建築分野での需要減、原料高の影響を受けました。下期は価格改定が進み、年間では前年並みに収益が回復する見通しです。
- E & Iは、ポリイミドフィルム・アクリル樹脂の高水準の販売により、大幅な増益となりました。下期もスマートフォンおよび液晶TVの強い需要により、高収益を維持する見込みです。
- PVは、住宅向け高効率太陽電池の販売が着実に増加しています。壁・窓が発電するZEB用途での拡販、ペロブスカイトの研究開発を強化し、高付加価値製品のラインナップの拡充を急ぎます。
- Fiberは、頭髮製品の販売が着実に回復し、前年同期比では増益となりました。アフリカ諸国の高インフレ・通貨安や政情不安が続いていますが、新製品による需要の創出を計画しています。

Active Human Life Solution / 化学を軸に、食と医療を一つと捉え、人々に健康で活力のある人生をもたらす革新的なソリューションを提供します。

Health Care Solutions Unit

革新医療がより多くの患者に届けられる世界を創る
Medical Edge Explorer

Medicalでの新製品投入・拡販進展。Pharmalは一時的な出荷調整
年間ではユニット全体で収益拡大の見通し

- Medicalは、血液浄化器の北海道新プラント(苫東工場)が順調に稼働を開始しました。血液浄化器・カテーテルともに販売が順調に拡大しています。また、今般同工場でのカテーテル新プラントの建設を決定しました。グローバルな需要拡大に対応し、業容の飛躍的な伸長を目指します。
- Pharmalは、一部で第4四半期への出荷調整が発生し、販売減となりました。第3四半期には出荷調整の影響が残るものの、第4四半期は新規大型案件の集中出荷により、収益は回復する見通しです。

Nutrition Solutions Unit

食と健康に革新をもたらす
Nutrition Value Chain Innovator

Supplement・Foodsとともに堅調な業績を維持。大幅な増収増益
下期も好調を維持し、年間では大幅増益を計画

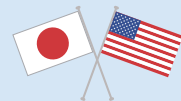
- Supplementは、還元型Q10が米国向けで第1四半期の集中出荷の反動を受け、第2四半期は在庫調整となりました。下期はグローバル市場での拡販が進み、収益は着実に伸長する見込みです。
- Foods & Agrisは、高付加価値品へのシフトとスプレッドの改善が進み、強い増益モメンタムを継続しています。「B2C」事業については、「わたしのチカラ®Q10ヨーグルト」などの新規機能性食品のラインナップ拡充、「Q10果実グミ」の拡販、有機乳製品の市場投入など、特徴ある高付加価値品の販売が拡大しています。下期も高付加価値品へのシフト・新製品の拡販が進み、好業績を維持していく見通しです。



地域に根差し文化の違いを乗り越えるグローバルネットワーク

～おかげさまで、今年、米州と欧州は40年、50年の節目を迎えました～

当社は、ユニークな技術と製品を世界の隅々にまで届けるという強い思いのもと、1970年代から80年代にかけてベルギーと米国に順次進出しました。人々の命や社会課題を解決するため、ボーダーレスに価値あるソリューションをタイムリーに世界の市場に提供し、グローバルに存在感ある企業を引き続き目指してまいります。



Kaneka North America LLC (カネカノースアメリカ) 操業40周年記念式典

当社は、1982年にアメリカ・テキサス州にKaneka Texas Corporationを設立、2年後の1984年にモディファイヤー1号機の操業を開始しました。その後、アピカル®、塩素化塩ビ、コエンザイムQ10、MSポリマーの製造の現地化などユニークな技術・製品を米州で展開してきました。

今年6月、モディファイヤー操業から40周年を迎え、さまざまな記念イベントを行いました。

これまでご支援いただいていた地元自治体パサデナ市長への表敬訪問をはじめ、地元慈善事業団体への寄付を行ったほか、社員やOB・OGならびにその家族、総勢400名による記念式典・パーティーを実施し、これまでの感謝を伝えるとともに、未来に向けたメッセージを発信して盛大に仲間たちと未来を誓い合いました。



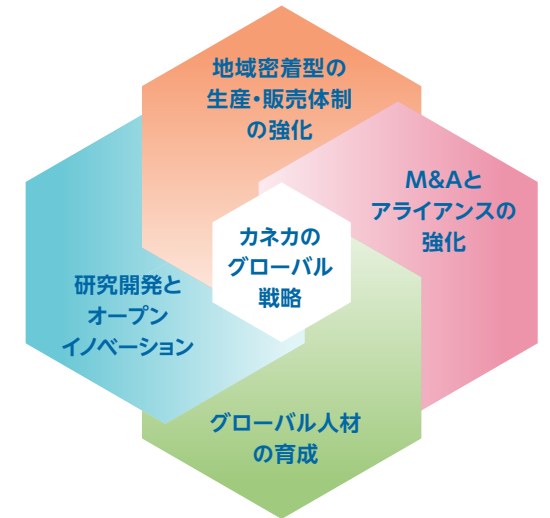
パサデナ市長訪問



40周年記念碑の前で仲間とともに

グローバルネットワーク戦略

当社は、地域ごとの統括会社が主体となってスケールとスピードある成長戦略を立案・実行し、ローカルな特徴を持ったグループ会社の強みを発揮して市場ニーズにマッチしたビジネスモデルを創出しています。より地域に密着したスピーディーな事業展開をこれからも目指してまいります。



Kaneka Belgium N.V. (カネカベルギー) 創業50周年記念式典

当社は、日本企業のパioneerとしてベルギーに進出しカネカベルギーを設立、モディファイヤープラントの生産開始により、1974年に本格的に事業をスタートしました。その後、欧州市場への展開としてモディファイヤーの能力増強を進めるとともに、発泡ポリオレフィン(エペラン®)、MSポリマーの生産開始・順次増強を進めています。この創業が、米州、アジアへのカネカのグローバル展開の礎となりました。

今年10月、カネカベルギーは創業50周年を迎え、地元自治体等に創業時からのご支援への感謝を伝える表敬訪問を行うとともに、ステークホルダー・イベントではベルギー・アストリッド王女をはじめ、EU日本大使、アントワープ州知事などご来賓も含め約150名による記念式典を行いました。

さらに、社員やOB・OGならびにその家族、総勢700名による記念式典のほか、地域との交流イベントを行い、カネカの社内外コミュニティとの絆を深める忘れられない思い出をつくることができました。



ウエステルロー市長訪問



50周年記念式典会場にて仲間と歓談

北海道に 最新鋭の医療機器プラントを竣工 ～苫東の地から、「夢見る工場、カネカ」～



新設した苫東工場

54年ぶりの国内新事業場 苫東工場

当社は今年8月、北海道の苫小牧東部地域に苫東工場を開設しました。同工場は、当社にとって54年ぶりに開設する5番目の新たな国内工場です。

開所式では、鈴木北海道知事や木村苫小牧副市長をはじめ、関係者約160名をお迎えし、その後、苫小牧市内のホテルにて記念パーティーを行い、工場開設にご支援いただいた関係者への感謝をお伝えしました。



開所式でのテープカット



記念パーティーでの感謝の辞

「スマートファクトリー」「ゼロエネルギーファクトリー」

苫東工場は、AIやロボットなどの先端技術を活用した「スマートファクトリー」であり、ラインを自動化したフィールドオペレーションゼロを実現しています。また、当社の太陽電池を用いて「ゼロエネルギーファクトリー」化を計画しています。

11月には血液浄化器プラントに続く、医療用カテーテルの新プラント建設を決定しました。陸・海・空のアクセスが良好な苫東地域から競争力のある製品をグローバルに提供し、Medical事業を拡大してまいります。



ロボット技術を駆使した自動化工程

当社は、「カネカは世界を健康にする。KANEKA thinks “Wellness First”。」という考えのもと、すべての人に先端医療が当たり前で普及する世界、地球環境と生活の革新にカガクが貢献する世界を実現します。

当社WEBサイトにて
苫東工場の動画コンテンツ
を公開中!



おいしさと健康にこだわった機能性表示食品の新商品を 続々と投入

～還元型コエンザイムQ10の「食」への積極的な展開～

当社は、独自素材である還元型コエンザイムQ10の新商品として、今年5月に「わたしのチカラ® Q10ヨーグルト 注意ケア ドリンクタイプ」を、9月には「わたしのチカラ® Q10ヨーグルト 注意ケア」個食タイプを発売し、ご好評いただいています。

また、新たに「健康な女性の肌のうるおいに役立つ」機能が報告されたことを受け、同じく9月に、“肌”と“ストレス”にアプローチする「わたしのチカラ® カネカQ10®果実グミ」を発売しました。さらに、11月には“一時的なストレス改善”機能に新たに“肌のうるおいを保つ”機能を加え、ストレスと肌のうるおいの両方の悩みに応える「わたしのチカラ® Q10ヨーグルト うる肌ケア・ストレス ドリンクタイプ」を発売しました。

このほか、ホットヨガスタジオLAVAとの共同開発ドリンクで、肌と睡眠にアプローチする機能性表示食品「ナイトヴェール®」など、還元型コエンザイムQ10の新たな魅力をお届けしています。



新商品発表会ではカネカアンバサダーの知花くららさんが登場

当社は、「カネカは世界を健康にする」という経営ビジョンのもと、おいしさと健康をテーマにした商品を市場で展開しています。今後も、カネカのサプリメント素材を配合した健康に関する商品を通じて、人々の健康と豊かな食生活に貢献してまいります。

わたしのチカラ®
Q10ヨーグルト
うる肌ケア・ストレス
ドリンクタイプわたしのチカラ®
Q10ヨーグルト
注意ケア
ドリンクタイプ(左)
個食タイプ(右)

ナイトヴェール®

わたしのチカラ®
カネカQ10®
果実グミ
ジューシーピーチ味

※ナイトヴェール®は株式会社LAVA Internationalの登録商標です。

新しいカネカの文化を創る

～世界の生産“母港”高砂工業所の取り組み～

Wellnessに向けた仕掛け

当社は、「健康経営-Wellness First」の実現に向けて、従業員が元気ハツラツに活躍する健康な職場づくりを進めています。新しいワークカルチャーの創出を目指しています。

2022年に健康経営のシンボル「Kaneka Wellness Center 風の杜®」を稼働し、2023年には働く意識を切り替える「新正門」や健康と安全意識を確認する「集中更衣棟」、さらには今年8月に「新事務所棟」を竣工しました。新事務所棟は、①WellnessとSmart Work実現の場、②多様なコミュニケーションによる気付き・発想の場、③危機管理センターを含む工業所戦略機能として位置付けています。



当社有機EL照明や太陽光発電を活用した新事務所棟



部署の垣根を越えたフリーアドレスで、コミュニケーションを活性化

仕掛けの最終ステップ

今年11月には、最終ステップとして「新厚生棟」の建設を決定しました。食堂・売店、当社の事業・活動が感じられる場、ラウンジやテラスを設置する計画で、心身を整え、従業員同士がつながり化学反応を起こす場として、「あつまる・つながる・うごきます」を実践します。

新厚生棟を含め、新エリアを「Limitlessな冒険」の扉を開く場所に創り変え、グローバルセンターとして高砂工業所の文化を変革してまいります。



「新厚生棟」の完成イメージ

連結財務諸表

▶ 中間連結貸借対照表(要約)

(単位:億円)

科目	第101期	第100期
	2024年9月30日現在	2024年3月31日現在
資産		
流動資産	4,153	4,289
固定資産	4,422	4,413
資産合計	8,575	8,702
負債		
流動負債	2,858	2,917
固定負債	968	1,042
負債合計	3,826	3,958
純資産		
株主資本	3,894	3,874
その他	855	870
純資産合計	4,749	4,744
負債純資産合計	8,575	8,702

Point

- **総資産**は、売上債権の減少などにより前期末に対して127億円減少の8,575億円となりました。
- **負債**は、仕入債務の減少などにより132億円減少の3,826億円となりました。
- **純資産**は、配当支払いおよび自己株式の増加の一方、利益剰余金の増加などにより5億円増加の4,749億円となり、自己資本比率は53.0%となりました。

Point

- **売上高**は、前年同期に比べ258億円の増収(前年同期比7.0%増)となりました。
- **営業利益**は、前年同期に比べ65億円の増益(前年同期比51.5%増)となりました。
- **経常利益**は、前年同期に比べ17億円の増益(前年同期比13.0%増)となりました。
- **親会社株主に帰属する中間純利益**は、前年同期に比べ13億円の増益(前年同期比14.2%増)となりました。

Point

- **営業活動**によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純利益や減価償却費などにより230億円の収入となりました。
- **投資活動**によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得などにより304億円の支出となりました。
- **財務活動**によるキャッシュ・フローは、社債償還や自己株式取得による支出の一方、借入金の増加により16億円の収入となりました。この結果、**現金及び現金同等物の残高**は、381億円となりました。

▶ 中間連結損益計算書(要約)

(単位:億円)

科目	第101期	第100期
	2024年4月1日から2024年9月30日まで	2023年4月1日から2023年9月30日まで
売上高	3,960	3,701
営業利益	191	126
経常利益	144	127
税金等調整前中間純利益	156	144
親会社株主に帰属する中間純利益	102	89

▶ 中間連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:億円)

科目	第101期	第100期
	2024年4月1日から2024年9月30日まで	2023年4月1日から2023年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	230	240
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 304	△ 306
財務活動によるキャッシュ・フロー	16	99
現金及び現金同等物の中間期末残高	381	449

※詳細は、当社WEBサイトをご覧ください。

企業データ

(2024年9月30日現在)

▶ 会社概要

社名 **株式会社 カネカ**
(KANEKA CORPORATION)

東京本社 〒107-6028
東京都港区赤坂一丁目12番32号
(アーク森ビル)
TEL 03-5574-8000(代表)

大阪本社 〒530-8288
大阪市北区中之島二丁目3番18号
(中之島フェスティバルタワー)
TEL 06-6226-5050(代表)

設立年月日 1949年9月1日

資本金 33,046,774,709円

ホームページ <https://www.kaneka.co.jp/>

▶ 役員

代表取締役会長	菅原 公一
代表取締役社長	藤井 一彦
取締役副社長	亀高 真一郎
取締役副社長	角倉 護
取締役常務執行役員	泥 克信
取締役常務執行役員	榎 潤
取締役常務執行役員	小森 敏生
取締役常務執行役員	木村 雅昭
取締役(社外)	毛利 衛
取締役(社外)	横田 淳
取締役(社外)	笹川 祐子
取締役(社外)	三宅 宏実
監査役(常勤)	岸根 正実
監査役(常勤)	石原 忍
監査役(社外)	藤原 浩
監査役(社外)	魚住 泰宏

▶ 株式の状況

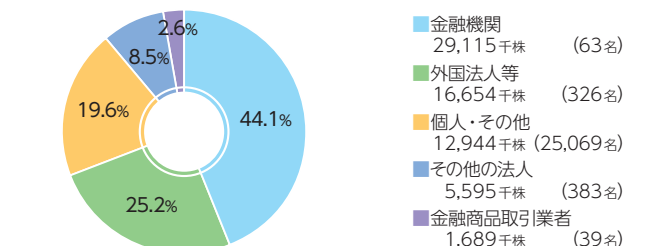
発行可能株式総数 150,000,000株
発行済株式の総数 66,000,000株
株主数 25,880名
1人あたり平均持株数 2,550株

▶ 大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,258	11.53
日本生命保険相互会社	3,114	4.95
株式会社三井住友銀行	3,091	4.91
明治安田生命保険相互会社	2,825	4.49
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,613	4.15
株式会社三菱UFJ銀行	2,308	3.67
三井住友海上火災保険株式会社	2,104	3.34
BNYMSANV AS AGENT/CLIENTS LUX UCITS NON TREATY 1	1,626	2.58
カネカ取引先持株会	1,365	2.17
カネカ従業員持株会	1,280	2.03

(注) 1. 持株数は表示単位未満を切り捨て
2. 持株比率は、自己株式数を除いた発行済株式の総数を基準に算出し、小数第三位を四捨五入
3. 上記のほか、当社が保有している自己株式は3,066千株

▶ 所有者別株式分布状況



(注) 1. 株式数は表示単位未満を切り捨て
2. 比率は小数第二位を四捨五入

インフォメーション

▶ WEBサイトのご案内

統合報告書や、最新のリリースなどをご覧になれます。引き続き、内容の充実と、適時適切な情報開示を行ってまいります。

▼ IR情報
統合報告書は
当社WEBサイトから
チェック!



カネカ

▶ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
公告方法	電子公告 https://www.kaneka.co.jp/koukoku/index.html
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)

(カバーアート) アーティスト: 曾谷朝絵
・タイトル: Topia
・制作年: 2022年

▶ 配当金の受け取り方法

配当金の受け取り方法は3つあります。②または③は、支払い開始日当日の受け取りが可能です。また、**支払い開始日から満3年を経過した配当金は受け取りができなくなります**ので、口座振り込みをぜひご活用ください。

1 郵便局などの窓口 「配当金領収証」を持参し、郵便局などで受け取り

おすすめ!

2 証券口座への振り込み 各証券会社の証券口座で受け取り

3 銀行口座などへの振り込み 指定の金融機関口座で受け取り(個別銘柄ごとの指定も可能)

問い合わせ先
現在の受け取り方法の確認や変更など、配当金の口座振り込みに関する問い合わせは、お取り引きの証券会社(口座管理機関)にお申し出ください。

▶ 手続き窓口

- 住所変更、買取請求などの手続きは、口座を開設されている証券会社などにお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する手続きについては、左記特別口座の口座管理機関の三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。
- 未受領の配当金については、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

UD FONT
by MORISAWA
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

